



競技規則の一部変更（ルール改正）について

今年度より競技規則が一部変更になります。ルールの変更点について紹介したいと思います。

1、ノー・チャージ・セミサークル・ルール

ノー・チャージ・セミサークルのラインは、ノー・チャージ・セミサークル・エリアに含まれることになった。すなわち、ノー・チャージ・セミサークルのラインに触れている防御側プレイヤーは、ノー・チャージ・セミサークル・エリア内にいるものとみなされることになった。したがって、防御側プレイヤーがノー・チャージ・セミサークルの外側にいても、その防御側プレイヤーがノー・チャージ・セミサークルのラインに触れている場合は、ノー・チャージ・セミサークル・ルールの規定が適用されることになった。これは、ショットやパスをするためにジャンプした攻撃側プレイヤーをより保護するための変更である。

※「片足だけがラインに触れている場合」など、変更に伴随する細かい点における規定については、F I B Aからの解説の発表を待つことになる。

2、タイム・アウト

第4ピリオドの最後の2分間には、1チームがタイム・アウトを3回とることはできなくなった。すなわち、「1チームは、後半（第3ピリオドと第4ピリオドを通じて）に3回のタイム・アウトをとることができる」が、第4ピリオドの最後の2分間にはそのチームにタイム・アウトが3回残っていたとしても、それぞれのチームは2回ずつまでしかタイム・アウトが認められなくなった。これは、ゲーム終了直前における過度の回数のタイム・アウトによるゲームのたび重なる中断を避けるための変更である。

※ 1チームが「後半（第3ピリオドと第4ピリオドを通じて）に3回のタイム・アウトをとることができる」という本来の規則についての変更はない。

※「前半（第1ピリオドと第2ピリオドを通じて）に2回」、「各延長制限には1回ずつ」のタイム・アウトをとることができることについては規則の変更はない。

3、24秒ルール

フィールド・ゴールあるいは最後のフリースローのボールがリングに触れたのち、シューター側チームのプレイヤーがそのリバウンドのボールを取った場合は、24秒計は14秒からはかり始められることになった。これは、ゲームのテンポ・アップやスピード・アップを図り、攻撃やショットの機会をより増やすための変更である。

※ 器具（24秒計）の仕様に変更が求められているので注意すること。

※「ショットによってボールのコントロールが終わっても、24秒の制限が終わらないうち（ボールがリングに触れなかったとき）にふたたび同じチームがそのボールをコントロールした場合は、24秒計は止めないしリセットもしない」ことについては変更はない。

※「パスされたボールがリングに触れた場合」など、変更に伴随する細かい点における規定は、F I B Aからの解説の発表を待つことになる。

4、テクニカル・ファウル／その①

プレイヤーに科されるものでもコーチに科されるものでも、テクニカル・ファウルの罰則は「相手チームに1個のフリースローとスロー・インを与える」ことになった。そのほかの点については下記5. に述べられたもの以外、特に変更はない。これは、テクニカル・ファウルとアンスポーツマンライク・ファウルを比較したとき、“からだの触れ合いのないテクニカル・ファウル”にも“からだの触れ合いによるアンスポーツマンライク・ファウル”と同様に「相手チームに2個のフリースローとスロー・インを与える」ということが罰則としては重すぎるのではないかという考え方から、これらのファウルによる罰則の重さのバランスを取るための変更である。

※ 変更になるのはフリースローの数だけである。

5、テクニカル・ファウル／その②

1プレイヤーにテクニカル・ファウルが2回記録されたときは、そのプレイヤーは失格・退場になることになった。これは、1プレイヤーが一度テクニカル・ファウルを宣せられているにもかかわらず、ふたたびスポーツマンシップとフェア・プレイの精神を逸脱するふるまいをしてゲームのクリーンな雰囲気を損なった場合に、そのプレイヤーにより重い罰則を科すための変更である。

※ テクニカル・ファウルとアンスポーツマンライク・ファウルは種類の異なる別個のファウルとして考えるので、1プレイヤーにテクニカル・ファウルとアンスポーツマンライク・ファウルが1回ずつ記録されても、それだけでは失格・退場になることはない。

※ この規定によってプレイヤーが失格・退場となった場合は、罰則はテクニカル・ファウルの罰則だけを適用する。したがって、そのうえさらにディスクォリファイング・ファウルの罰則が適用されることはない。

※ コーチに記録されるテクニカル・ファウルの回数によるコーチの失格・退場となる条件については変更はない。

編集後記



「もし、バスケットボールをやっていなかったら～」今回の広報を作成する中で、ミニバスケットボール主将の大坪輝君の言葉がすごく印象に残りました。

私事です「もし、バスケットボールをやっていなかったら…」きっと自分の人生は大きく変わっていたと思います。「バスケットをやっていたからこそ」たくさん親友と呼べる仲間、影響をあたえてくださる人達と出会え、今の自分がいます。

私が中学校の頃、スラムダンクという漫画が流行ったことも影響して中学校からバスケットボール部にはいる人が非常に多かったです。しかし、

今はバスケットに限った話ではないですが、なかなか中学校から運動部の部活にはいる生徒が少ないのが現状です。

だからこそ、今回のミニバスケットボールをはじめ、協会が主催している小学校バスケットボール教室やアンダー13の練習会など小学校という時期の活動は大切なんだなぁと感じました。協会でも多くの方が自分の時間をさいて、盛り上げようとして尽力されています。「バスケットボールをやっていてよかった!」と思える子ども達が増えるように協会全体で盛り上げていけるといいなぁと思いました。(Y・Y)



スリーバイスリー

3×3 高山大会

昨年度の11月23日に3×3の高山市の大会が開催されました。小学生、中学生、一般、ファミリーの部のカテゴリーに分かれて熱い戦いが繰り広げられました。大会に参加した中学生からは、「ふだんの練習とは違って面白かった」「いっぱいシュートが決められてうれしかった」などの声があがっていました。また、ファミリーの部で参加したお父さんからは「子どもと一緒にバスケットの大会にでられるなんて思ってなかった。こんな機会があるとうれしい。」との声が聞かれました。高山市には、バスケットが好きな大人、子どもがたくさんいます。こうやって大人も子どもも関係なく盛り上がっていける大会は素敵ですよ！



TAKAYAMA AMATEUR BASKETBALL ASSOCIATION

飛騨高山のバスケットボールを盛り上げよう!

編集・発行：高山市バスケットボール協会

tabba.jp

高山市バスケットボール協会は

賛助会ははじめ協会を支えてくださる皆様のお力添えをいただきながら

地方が疲弊化する中で若者にバスケットボールを通じて

夢と誇りを持って頂き

この地域を支える大きな担い手としての存在を希望しながら

これからも協会活動に邁進していきます





ミニバスケットボール戦績

今年度は、高山男子ミニが県内でも活躍し、好成績をおさめました。ミニバスケットボールというカテゴリーが盛んになると、その上の中学校、高校といったカテゴリーも盛り上がってきます。今回は、高山男子ミニの成績や主将の大坪輝君に1年間をふりかえってを紹介します。

月	日	大会名	結果
3	15	土岐新人交流会	2位
5	3～5	フェスティバル in 福井	6位
	25	カクタスカップ	優勝
7	12・13	志乎カップ	優勝
	20	夏季飛騨地区大会	優勝
	26・27	高山カップ	優勝
8	9・10	養老カップ	優勝
	24	夏季県大会	ブロック優勝
9	27	土岐東海研修会	1位
	28	富山練習試合	1位
10	11・12	明道カップ	優勝
	18・19	イチイ杯	4位
	26	秋季地区大会	優勝
11	9	秋季県大会	ブロック優勝
	23	県大会決勝トーナメント	準優勝
12	20・21	東海大会	高山41×42東海 高山29×31常盤 高山32×41篠原
1	12	全国大会県予選	優勝
	18	ひょっこりひょうたんカップ	2勝1敗
	25	岐阜カップ	優勝
2	14・15	白帝カップ	3位

通算 69勝13敗



ミニバスケットボールの6年間を振り返って

平成 26 年度
高山市ミニバスケットボール 主将
大坪 輝



ぼくは、小学校1年生から6年間、ミニバスケットをやってきました。終わってみるとあっという間ではありましたが、いろいろなことがありました。

もし、バスケットボールをやっていなかったら、このチームメイト、この仲間に出っていませんでした。こんなに僕を楽しませてくれたバスケ。こんなに僕を成長させてくれたバスケ。そして、キャプテンとしての僕についてきてくれた仲間。コーチやお父さん、お母さんに感謝したいです。

6年生として活動した最後の1年間はとても充実していました。岐阜県の1番強いチームを決める公式大会。準決勝で今まで競い合ってきた養老ミニに勝つことができ、「よし！優勝だ！！」と気をぬいてしまい、決勝戦で敗れて、準優勝になってしまいました。とっても悔しかったです。でも、僕たちは、気持ちを入れ直して練習しました。コーチの方々の指導も厳しくなりました。その結果、最後の県大会では養老ミニにも多治見精華にもリベンジして優勝することができました。とても嬉しかったです。

6年生はミニバスケットを退団し、中学校に進みます。バラバラになるけれど、ミニバスケットで学んだことと鍛えられたことを大切に頑張っていきたいです。